

政策を問う ここが聞きたい

こども医療費の 現物給付の状況は

答 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会への
説明を行った



赤嶺奈津江 議員

問 こども医療費の現物給付
に向け、現在の状況はどうか。

町長 必要な事務に取り組み、
県医師会、県歯科医師会、県
薬剤師会へ説明を行った。

問 母子及び父子家庭等医療
費助成への対応はどうか。

副町長 中学校卒業まではこ
ども医療費助成の対象として
対応する。中学校卒業後から
高校卒業までの生徒とその親
の医療費助成は、平成29年中
に自動償還へ移行予定である。

**学童期生活習慣病の
予防健診の状況は**

問 今年度より小学5年生、
中学2年生を対象に学童期の
生活習慣病予防健診が行われ
ている。その受診率や検査結
果はどうだったか。

副町長 小学5年生は464
人中154人が受診し、受診
率は26・5%である。中学2
年生は444人中87人が受診し、
受診率は19・6%である。糖

尿病等で病院受診等を薦めた
児童生徒はいない。ヘモグロ
ビンA1c血糖検査で基準値
以上が、小学5年生で4・5%、
中学2年生で6・9%である。

問 健診結果を受けて、児童
生徒へのフォローはどうして
いるのか。

副町長 医師・栄養士・運動
指導士から結果の説明と栄養
指導・運動指導を実施してい
る。

問 こども医療費現物給付
は、「ひどくなる前に、慢性
化する前に」治療することで
将来の医療費抑制にもつながる。
学童期の生活習慣病予防健診は、
現物給付と同様に大きな意義
を持つと考える。今回の受診
率をどうとらえているか。

副町長 受診率は低いとら
えている。生活習慣病を予防
するためには、学童期からの
生活習慣病予防の意識を高め
ていくことが重要である。受
診した児童生徒の保護者から、

「学校で実施して欲しい」、「学
校で実施したほうが多くの児
童生徒が受診できる」との声
が多くあった。教育委員会と
の調整会議を検討する。

学童期の生活習慣病予防健診項目

- 1 ●血液検査
- 2 ●血圧検査
- 3 ●周囲測定

**町や各種団体が行う
行事の調整を**

問 協力依頼される各種団体
からも行事の見直しや統合す
ることができないかと声がある。
参加人数が少ない行事の見直
しや類似行事を一つにするこ
とはできないか。

教育部長 今後は重複した事
業がないか、教育委員会、町
長部局と連携して統廃合を含
めて調整を行う。